

には何が必要なのでしょうか。

具体的な例で話しましょう。いちばん最初の例にあげた、たった一回の性交で妊娠した女学生の話です。

彼女は高校一年のとき入学と同時に部活の先輩と交際を始めました。そのときは「もう我を忘れるくらい好きな気がして楽しい高校生活が始まる」と思ったそうです。しかし彼はかなり自分勝手な男性で「セックスできないのは自分が好きじゃないからだろう」とか「セックスしないなら別れる」と言われ続けたのです。それで断り切れずにセックスに応じました。きちんとこの日にと決めていたらしいのですが、彼は「なかなか子どもはできないから」と避妊をしてくれなくて、自分でも避妊を言い出せないどころか避妊の知識さえなかったのです。それで不信感がつのり以来まったくセックスはしなかつたのですが、四カ月近く月経が来ず、妊娠検査薬でチェックすると陽性（妊娠）だったのです。

彼に電話で連絡すると彼の母親に知られて、自分の親にも言うように説得され、その後彼の母親は「あなたが迫ったのだろう」とか「発情したメス犬のように近づいたのだろう」と散々言いたい放題で電話の近くにいた彼もそれを否定せず、彼女は絶望感でいっぱいになったと言います。彼女は悩んだあげく人工妊娠中絶を選ぶます。もちろん後期中絶ですから死産届けも出し、火葬もしました。その間彼女の両親は火葬の手配やお墓さがしをしてくれて、彼女を思いやってくれて

彼女は両親には「感謝して、一生かけて大切にしていきたい」と思ったそうです。

しかし彼女の心の傷は消えずに、その中絶の罪を一生背負い、もう誰ともセックスしないと決めていきます。

なんと重い話でしょう。私はこの話を知って、彼女や彼がきちんとした性教育を受けていたら、もっと幸せな性との出会いがあったのではと思いました。では何がその性教育に必要なのかをこの話から分析していきましょう。

恋愛と性の多様性

まず恋愛についてです。この話の彼女も恋愛に有頂天になっていますが、いま中学生や高校生と話していると、「恋人が欲しい」「恋愛したら素敵なのがある」という願望を聞きます。まるで恋愛していないと不幸で人間的な魅力がないように思われています。これには雑誌やテレビの影響が大きいのです。クリスマスやバレンタインデーには恋愛やデート特集が組まれ、女性雑誌やマンガにはカップルになり恋愛成就・結婚でハッピーエンドという情報が溢れます。またテレビドラマを見ても恋愛話が主流です。しかもこれらの女性像の多くは恋愛には受け身で告白もキスも男性が主導権をもっています。それにキスしたら、なし崩し的にセックスを連想させるシーンになることが多くあります。性教育ではこれらのメディア情報を批判的にみる力をつける必要があります。

まず人間は恋愛していなくても十分幸

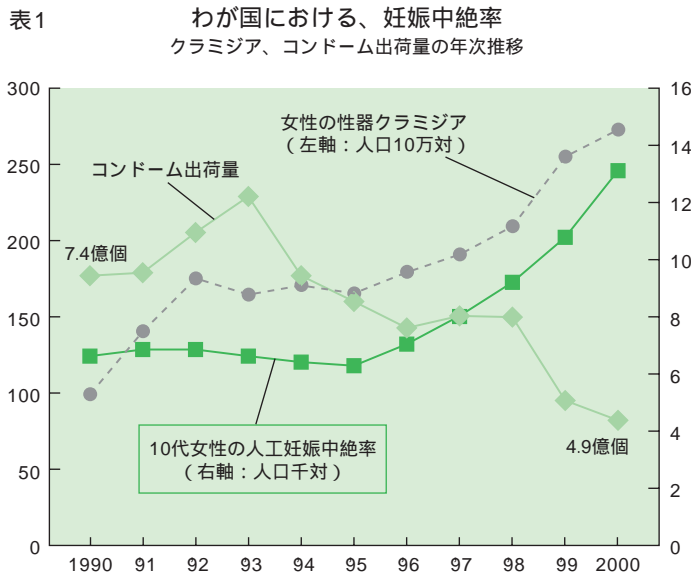
せであるということ

です。むしろ恋愛依存の方が危険です。自己肯定の低い人ほど寂しさから出会い系サイトなどにはまりやすいからです。二番目に、恋愛してもセックスするかどうかという切り離して考えることです。好きだからセックスは当然ということはありません。むしろセックスをすることで望まない妊娠や性感染症のトラブルを招くこともあります。表1にもあるように若者の人工妊娠中絶や性感染症の急増もあります。「十代の妊娠の八割は中絶に終わる」という事実も踏まえ、ノーセックスと安全を基本に実際の仕方もじっくり自分たち流をつくりだす手助けをしたいものです。三番目に、セックスするにしても、なし崩し的にムードでなんとなくではなく、しっかり話し合っ避妊や性感染症予防まで合意すべきだということです。

男の子（男性）について

このような二人の信頼できる関係をつくっていくうえで、男の子の思いやりと信頼を得るための行動は欠かせません。この話の彼は本当に自己中心的で自分の

表1 わが国における、妊娠中絶率
クラミジア、コンドーム出荷量の年次推移



資料出所：「エイズの今後」（「健康教室」2003年2月増刊）
木原正博、雅子論文より

思いだけでセックスを迫っています。相手の思いやからだをいたわっていません。セックスは二人で行う行為ですから、お互いの心からの同意と安全面の配慮が必要です。一方（多くは男性）が無理強いしたり、避妊や性感染症予防に協力しないセックスは一種の虐待です。現状では恋愛や性行為において主導権を握りやすい、そして自らのからだには妊娠という事実が起きない男の子にこそ、相手の言葉を素直に聞ける思いやりと、妊娠や性感染症の知識をもって予防行動できる力を性教育でつけておくべきです。またこ